

大地の恵み

blessing of the earth

『共に語り考える ふるさとの水・土・里』

vol.11

H22.3

—あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人フォーラム2009—

- 水土里の郷 わくわく探訪 ～土地改良施設巡り～
- 2009秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会
- 河川のゴミ汚染は防げるか
○環境保全に向けて ～清流を取りもどすために～
- 農業用水を利用した小水力発電
- 耕作放棄地の現状と対策～あきたの^{ふるさと}原風景を守り継ぐために～
- 平成21年度活動状況報告



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

私たちが住む「あきた」は豊かな自然環境と伝統文化に恵まれ、先人たちが暮らしと調和のなかで美しい農山村地域をつくり上げてきました。

一方で、各地域では過疎・高齢化が進行しており、農業の担い手、後継者不足に歯止めが効きが見えないのが現状です。

県内各地には豊かな自然や食文化、伝統文化が存在します。こうしたものは、地域活性化のツールとして、

また農山村と都市との交流をもたらす地域資源として、無限の可能性を秘めていると考えられます。

今回のフォーラムは、秋田の豊かな自然や農業・農村の持つ様々な役割と、

ふるさとが育んだ文化を再認識し、「水・土・里」を活かした

地域活性化について考えます。

あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人フォーラム2009

共に語り考える ふるさとみのと水・土・里り

プログラム とき:平成21年9月6日(日) ところ:秋田市文化会館小ホール(秋田市)

主催者代表挨拶

高畑 進 (あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会館会長)

中山間ふるさと水と土フォーラム

地域芸術「真浦太鼓」/真浦太鼓保存会(美郷町)

平成21年度秋田県21世紀土地改良区 創造運動表彰式

秋田県知事賞

○水と土ネット子吉(由利本荘市子吉土地改良区)

秋田県奨励賞

○水と土ネット館代東(館代市東土地改良区)

水土里の活動報告

① 創造運動活動報告

21世紀土地改良区創造運動(活動報告)/水と土ネット子吉

② 水土里の活動報告

水源と森林の果たす役割/香佐部 真さん(木を植える人びとの会 事務局員)

③ わくわく探訪・感想文発表

蛸崎 明歩さん(大館市神宮寺小学校5年)

甘野 出帆さん(秋田市用成小学校4年)

基調講演

演題 「離れて想う秋田」

講師 岩本 公水 さん(歌手)



主催 あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会館
秋田県

主管 水と土ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)
秋田県農林水産部農山村振興課

表紙写真:「語らいの時」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

主催者挨拶



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議
会長 高畑 進

本日は「地球人フォーラム2009」に多数の皆様、ご来場頂きありがとうございます。当フォーラムも平成11年に開始されて以来、本年度で第11回目となりました。

お陰様で、当フォーラムの母体であります「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」の活動が認められ、全国農村振興技術協議主催の平成20年度農業農村整備事業広報大賞を受賞してございます。

これも会場の皆様をはじめ関係各位のご理解、ご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

フォーラム開始以来、10年という節目を過ぎ、今後とも「水・土・里」の意義を広く訴え、理解を得ながら「水・土・里」の保全を共に考え、活動を展開して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は大不慮な日が多く、本県は梅雨明け宣言のないまま夏が過ぎましたが、西日本を中心に7月から8月にかけて大雨が降り続き、多数の人命が奪われるとともに家屋や道路等に損傷大な被害をもたらし、改めて自然の驚異を思い知らされたところであり、ます。

国土交通省の発表によりますと全国の水使用の実に65・8%が農業用水だそうでございます。水稲の栽培は、その成長の過程に合わ

せて、水を貯(ため)たり、放出したり、なおかつ、水田、用排水路とも貯水量には余裕がございますので、水田は自然のダムといわれる所以であります。

また、手入れの行き届いた棚田は確かに美しく日本の風景を代表するものがあります。

しかしながら生産性という側面からとらえますと全て人力に頼らざるを得ず、これほど効率の悪いほ場はない訳でありますから、巷で言うほど保存は簡単なものではありません。

歴史的遺産と同様に所有者の努力のみに期待するだけでなく、平成19年以来、全国の水・土・里ネット等が取り組んでいる「農地・水・環境保全向上対策」のように個人、民間及び行政が一体となった活動が必要と思えます。

先日、当会議主催の「水・土・里の郷 わくわく探訪」が美郷町、大仙市で開催され、小学校児童と父兄65名で旧六郷町の湧水群やため池、頭百工、田型分水工などを見学して参りました。

その一端は、後程の「わくわく探訪」感想文発表会で、参加された児童2名から発表されますが、土地改良施設を管理する秋田県七滝土地改良区は農業用水を確保するために山に植林し水源涵養保安林を造成し、水争いを防止するために筒ものオリフィス(孔)を有する田型分水工を設置するなど農業用水の確保と利用については、本県のモデルとなる団体であります。機会がありましたら、是非一度「見学したい」と存じます。

また、旧六郷町は思われた湧水を利用して

サイダーや日本酒が製造されている他、各家庭にも清水が引き込まれ、水道の役割を果たすなど正に水の恩恵を受けた町であります。

それだけに水に対する住民の思い入れは人一倍強いものがあるものと存じます。このため、旧六郷町では、地下水の循環・再生・保全を考え、地下水位の変化、湧水量、水質などの調査を町内十数カ所で行っているほか、大学の協力を得、地下水涵養の促進に取り組みしており、町内4カ所に造成された涵養池では、水田灌漑期を除く通年で人工涵養を行っております。

一方、本日の講演をお願いしております岩本公水さんの生まれ故郷であります羽後町は、昨年本県で開催された第31回全国土地改良大会にも出演をお願いした西馬音内盆踊りで全国的にも有名であり、町の東部を雄物川が流れ、出羽丘陵の分水嶺で他町と境を分かっております。いわば「山と川のある」典型的な農村で、出羽丘陵の滴の一滴が次第に集まり、山間部、平野部を潤しながら雄物川に注いでおります。

秋田美人という角館を思い浮かべる人が多いと思いますが、失礼ながら岩本さんにお会いして、羽後町も秋田美人の産地であったかと思われられた次第であります。岩本さんには「離れて想う秋田」と題して講演頂戴しておりますが、得意の喉も何曲か披露して頂けることですので、楽しみにしております。

以上、関会に当たつての挨拶といたします。



「共に語り考えるふるさとの水・土・里!!」

離れて想

秋田



♪ 岩本 公水(歌手)

(司会者)：皆様お待たせ致しました。

講師は皆様ご存知、秋田県羽後町出身の歌手岩本公水さんです。岩本公水さんは、平成7年5月24日、「玉花火」でキングレコードからデビューされました。

平成9年12月31日には第48回NHK紅白歌合戦に初出場されています。その後多数多くのシングルやアルバムをリリースされ、幅広く活躍されています。それでは、去年6月にリリースされた「花筏(はないかだ)」にのせてご登場です。大きな拍手でお迎え下さい。

(拍手)

(※歌あり)

離れて見た秋田は…

とてもありがとございました。「花筏」からお聞きいただきました。今日は講師ということでなんだか本当に申し訳ないような気がしますが、私、一応歌手ということでお仕事をさせていたたいるので、歌っている時はどんなに緊張しても素外気が楽なんです。でも、

こうやって、おしゃべりをお願いしますなんてほとんどないもので、大丈夫かなと昨日はなかなか眠ることができなくて、とても今日は緊張しています。でも、たくさんの方が「こ」やってお忙しい中足を運んでいただいている訳ですからまあちよつとでも、私自身が東京という場所に今離れて住んでいるもので、東京の方から見た、離れて見た秋田の様子を、少しでも私なりの気持ちをお伝えできればいいのかなあと思いますがいろいろな言葉、話したいことをちよつとすつまとめて、こゝ何日か過ぎてまいりました。

田んぼが気になります！

今日は朝早く東京を出て、飛行機で秋田の空港に着いたんですけど、まあ米がよく育っていて(笑)。今私、全国キャンパーン中なんです。九州にも行くし、大阪の方とか名古屋の方とか、特に最近は何東中心だったんですけど

全国いろんな所歩かせてもらうとやっぱり気になるのは「米」なんです。自分の家も羽後町で農家をやっているものですから「最近うちの父と電話で話していると決まっていたのが、「雨降りばっかりでなかもね。稲ばり生えて大変だ」って言ってます。「今年は米なるもんだべか？」と、そういう話をしました。それから少し時間も経って秋田の様子を見せてもらったら首部が垂れていましたね。でもまだ、黄金色というほど色づいてないのかなと思いましたが、稲刈りまではもう少し時間が必要なのかなと思つてその道すがらいろんな景色を、今回は楽しませてもらうて来ましたが、皆さんもご存知かと思うんですが、私ちよつと休んでいた期間がありまして、もう復帰して2年近く経つんです。もう健康で元気で全国を走りまわっているわけですが、やっぱり自分の家が農家だということで行く先々で畑とか田んぼをよく見させてもらいます。



共に語り考える ふるさとの水・土・里



米粉のパン

「うめがった〜♪!」



今日は、楽屋の方に米粉の粉? 「米粉を使ったパンだから公水ちゃんまず食べさせてくれ」って、ちっちゃなクロワッサンを買いました。みなさんのお手元にも届いているんですかね? 「うめがったよ」。まだ食べてないの? 食べました? 「まだ? ああそう」パンって普通は小麦粉ですよわ? 食べられなくても東京の方でも最近では米粉、小麦アレルギーとかの子供がすごく多いんです。すごく今の時代多いようなんですけど、米粉で作ったパンっていうのを食べさせてもらって、「うめがった!」ってパンと食べて出てきました。私、歌う前はほとんど物を食べないです。2〜3時間前から、酒物でぎゅっと締め付けるのでなんだか思苦しくなるような気がして、デビューした頃から物を食べないで歌うんですね。だけど今日珍しく、クロワッサンを2個食べちゃって。小さかったですよわ? 小さかったですから「もつと小さい!」と言ったら、またかなり買ったので今日は帰りの米粉のパン食べていたらいいなと思えました。山本郡の三種町ですか? 私今、ラジオをやらせてもらってこの三種町の話をお話させてもらってます。じゅんさいソフトクリームってものがあるんです。三種町の方で。じゅんさい、元々有名な所です

ども、「じゅんさいソフトクリーム食ってみて〜」っていう風にラジオでしゃべったりしたので、ここで作られている米粉のパンかと思つて、楽屋に入つてすぐ感激したんです。



父の影響 (歌手を目指したワケ)

昔、休んでる頃、休む少し前はなかなか物が体に入つていかなかったんですね。まず食べられないんですよ。いろいろなストレスもあつたと思いますが、私自身が歌手という道に進んだのは、父の影響です。羽後町という所でうちは農家をして、あまたこまち作っているわけですが、うちの父さんがまず、歌が大好きで小さい頃から一生懸命歌を教えてくださいました。たぶん初めて覚えた歌というのは、「帰つて来いよ」という歌だったと思つてます。そういう歌を歌つて地元のお祭りとかカラオケ大会とかもう数え切れないほど歌つて歩きました。あの頃は、お祭りで歌つたりすると商品がよかつたんですよ。今はあまり聞きませんが、自転車も買ったし、扇風機とかオーブントースターとかそ

ういづのが、よくお祭りの抽選会なんかあるとよく当たつたもんでそれから私も歌つて賞を貰うと、何かを貰つて帰れると思うと親が、まっすぐ買わしてくれろんだつたら、またなにか貰えるように頑張ろつと思ひまして、どんどん私も歌が好きになりました。うちの父も一生懸命教えてくれるんですが私の生まれる前から、うちの父は冬の問出稼ぎに行つています。今でもそうなんです。雪の降っている約半年近い間、家を離れるので、私は雪のない時期は父さんにずっと歌を教わっているわけですが、冬の間は冬の間は練習しますよわ? するとどうやって練習したかというところ、家の茶の間に、それはそれはお金をかけたカラオケセットがあつたんですよ。(笑い) 煙草で高音で、毎晩のように歌つて一人で練習してました。一人でもなんでも続けられたかと言つと、否、桜が咲く頃に父は帰つてくるわけですよわ。手土産いっぱい持つて、それこそ津軽平野の歌そのものなんですけど、土産いっぱい持つて帰つてきたときに、父さんに「おめ、この歌頑張って覚えたのか? うまくないな。頑張つたなあ」と言つてもらいたくて練習するわけですよわ。それでたくさん歌を覚えて、年を重ねて歌手になりたいという想いが、どんどん強くなりました。そして私の場合は、運のいいことにあんまり長い時間をか

けずに夢を叶えることができました。歌手を夢見て、高校を卒業すると東京へ出るわけですが、一年間〇しをしたんです。それは有線放送というところで、みなさんもリクエストすると女の子が出ると思つてますが、電話簿の仕事を一年やりました。でもその一年があつただけで、翌年にスカウトしていただいて、歌手の道を歩き始めることができました。私には、幸せな方だと思つています。下積み何十年とか、そういう方も多いい中、運もよかつたんじゃないかなと思つています。でもそこにたどり着くまで、歌を教えてくれた父はもちろんですが、秋田で私は十年近く歌謡教室に通つていまして、秋田のイシノヒサシ先生っていう方がいたんですね。作詞作曲をされる先生なんですけど、その方がとっても熱心に可愛がつてくださつて、月に二回か二回私が電車で羽後町から湯沢の方から出てくると、父のように「公水ちゃん今日は〇食べに行こうか」とか「秋のソフトクリームさ行くか」とか「秋田駅で金魚買つて食べようか」とかそれはそれ可愛がつてくださったんですね。その先生も、もう7年かな? 8年前に癌で亡くなつてしまったので私は、休む前に先生の歌を歌つていづのは叶わなかつたわけですが、でも本当にいろいろな出会いに恵まれて歌手という道を歩くことができました。



自由な時間…？

デビューしてすぐってというのは、一人暮らしとかそういうことは許されなかつたので、スカウトして下さった社長の家に住みこみだつたんです。住みこみで4年半という時間がありましたけども、今みたいに携帯が出回る前だったのでから世の中に「パー」と携帯が出始めたので、携帯というものはまだなくて住みこみの約束というのがあります「家に電話をかけない」「一人で遊びに行かない」という約束事があったんですね。家に電話をかける時には、社長とか奥さんが見てる前で電話しなさいってことなわけですよ。私はその頃田舎者だつたというか純粋だつたので、社長さんに言われるがままになつていたわけですけど、今考え直すと「さうしても親と話す時くらい自由な時間を与えてもらえればよかつたな」なんて今になって思うこともあるんですが。そうやって社長さんがいる前で親と話すと、親でありながら親と話しているような気がしないんです。親に対して敬語を使わなきゃいけないとか、そういうことは話すべきじゃないとかやっぱり歌手という道を歩かせてもらう以上甘えたことを話すのは無しにしようっていう約束があつて、それはそれは寂しいなって日々



がすつとありました。でも、今振り返ってみるとものすごく厳しく育ててもらつたからなんとか10年、頑張ることができたんだなと思うわけです。

10年目の一休み…



ちょうど10周年を迎えたときに私はお休みをいただきたいんです。なんで休んだかという、まず声が出なかつたんです。今話したようなことも含めていろいろ10年間の疲れやストレスとかがぶんあつたんだと思うんです。東京に暮らしてて数え切れないほどのお医者さんをまわりました。声が出ない声が出ないということでお医者さんを回つたんですけども、この医者に「行つても言われることはただ一言で、「喉は綺麗ですよ」「病気がないですよ」「声は出ますよ」「病気がないですよ」ってどこで調べてもさうしても声は出なくてテストの前の日の子供じゃないですけども、仕事に向かおうと思うと頭が痛くなつたり、声が出なくなるんじゃないかと不安な気持ちがどんどんどんどん湧いてきて、歌つと「言つと」がとつても怖くなつてきたんです。そこで私は社長さんに相談をしまして、ちょっと休みをもらいたい。今までデビューして丸10年間、私は一度も実家に帰つたことがなかつたんです。盆とか正月を親

と過ごすつてことが一度もなかつたので、ちょっとお休みをいただいて実家に帰らせてもらえませんかと相談したところ社長さんは許して下さいました。でも私自身は、心の中では休みをもらつたということはこの後の仕事が全部キャンセルになるわけですからいい具合がよくなるかも分からないし、逆に迷惑をかけてしまう。なので、心の中では仕事をキャンセルする。そして、私自身は歌手を辞めたつもりで田舎に帰りました。もう一度歌うことは自分の中ではないだろうとそれくらいの覚悟を決めて実家に帰つてきたんです。でも、喉はちりちり、ちりちり痛いわけなんですけど体は元気なんです。歩くこともできるし、走ることもできる。



歌いたいという気持ちと、歌えない歌えない、声が出ないっていうその気持ちの葛藤だつたんですが、それが不思議なことに実家に帰ってきたら二日、三日としないうち「「パー」と声が出るんですよ。これはやっぱり、お医者さんにも途中で言われたようにストレ

スなんだなあ、初めて自分で気付くんです。私は對と楽天的というか、血液型もO型なのでなるようになれという思いがあるんですけども、こんな私でもストレスとかそういうものを感じて声が出なくなつたところがあつたのかなとそんな思いを感じながら元気にふるさとで過ごしていたわけです。

私の帰る場所…故郷の両親



でも休むに当たつて、両親には何度も何度も相談をしました。東京に来てもらつて話し合いもしました。そんな中でやっぱり一番理解してくれたのは親だつたのでこの親に理解してもらつた以上は、私はちょっと休んでもいいかな？せつかく故郷つて言う所があるんだから帰つてもいいかな？つて自分自身に初めて帰ろうつて気持ちが湧いてきたんです。そして帰つたときに母が「第二声、三声を聞かせて」「おかえり、ご飯は？」つてさう普通に話してくれるわけですよ。そうすると、ああなんていい親なんだらうかと、一大変だつたんですよ。とかが「疲れたでしょう」とかさう言うことじゃなくて「おかえり、ご飯食べようか」とつていう風にもう何もなかつたように迎えてくれて、うちの父は父で「おめが元気になるように黒いめておいたから」「ちやんとうまい食つて元氣になれよ」つて、そんな風に言つてく



離れて想う 秋田

の中をゆっくり歩く機会があったんですね。雪の降る時は煙子や甥子と雪だるま作って遊んだりもしたし、畑や川に行ったり、その辺を散歩したり、そうすると東京では考えられないくらい木がいつはいさらさらさらさらっと風になびいていました。この建物の外も柳がいつはいありますよね。今、上で支度をしながら、柳の揺れる様子を見ると柔らかく柔らかく「サアー」と風になびいている様子が柔屋から見えたんですね。なかなか東京に居たときに、木の揺れる具合とか、木が「サツサツサツサツサツ」って音を立てて、風を感じてる様子って言うのは、ほとんど見る事がなかったんです。でも、休んだことによりて実家の方に帰ったときに木が「サツサツサツサツ」と喋ってるように聞こえたんです。何か囁いているような、木の泣いているような、笑っているような、そんな音が聞こえてきて「パツ」と見上げたときに、木と木の間から木漏れ日が「キラキラキラキラキラ」って、何ともいえないステージで歌って時を思い出させるような「ゆっ」「キラキラキラキラ」って木々が輝いている様子が見えたんです。それを見たときに、**ああこんな光をまた心の光を、失わずにいつの日か私も、もう一回歌を歌いたいな。**そんな思いを抱けないで頑張っていけば、もう一回いつの日か歌うことが自分に訪れてくれるんじゃないだろうか。もう一

回、やり直すことのできるんじゃないかな。とその木々の間から零れる光を見てすごく感じたんですね。諦めることではなくて私は今、例えば携帯電話でいうと電池がなくなると充電しますよね。その充電みたいに、ああ私は今電池三本のマークが立つように、充電するために帰ってきたんだな。そういう風に気持ちを切り替えて、自分自身がその光に向かって歩いてきて、今こうやってまた新たな歌の道を歩かせてもらってるような気がしたので、「光の射すほうへ」というタイトルは駄目でしようか。そんな風に周りの人にお願いをしたところ、「ああ素晴らしいね。公水ちゃんももう一回歌いたいか、頑張りたいて気持ちや光の中に見付けたんだね。それだったらその思いをそのまま、タイトルとして使いましょ」そういう理解をいただいたので、「光の射すほうへ」というアルバムのタイトルをつけたものを1月に出させてもらいました。

次のステップへ！



その中には、言葉だけでは伝わりにくいかなうと思つたので、私自身が木々の間から光が零れる様子を絵で描いたんです。葉っぱの絵をいっぱい描きました。その葉っぱはついでに、小さい頃から、家の後ろの山で遊んでると野ブドウっていつんですか？ヤマブドウ？

ちっちゃいブドウで、色がいろんな色あるんです。紫や白とか赤とか、色が移り変わる様子もブドウの美しいこと美しいこと。本当に絵に描くのも難しいくらい自然の力ですごいな。これが自然に育っているブドウなわけですから、なんと美しいものだろうと、そのブドウの美しさを自分の中でちよつと覚えたところがあつて、ヤマブドウ、野ブドウの絵をたくさん描かせてもらいました。そして、私は休んでいる間、陶芸教室にも熱心に時間があつたので通わせてもらったので陶芸で作った帯留めをいっぱい作っていたんです。いつの日かまたこれを使える日が来るようにと思いを込めていっぱい作っていたので、それをCDの中に写真で載せさせてもらったりました。まあ休んでいたという時間は、今になってみると2年半ありましたので、長かったような気もしますが、意味があつて私自身に体みが神様から与えられていたんだなって今は、すごく思います。なぜかという、休みに入つてすぐこれからゆっくりできるよという記念の意味も込めて、両親を沖縄旅行に連れて行つたんです。そしてうちの両親がえらく喜んでくれました。うちの父は、帰る日ですね、3日目、4日目くらいかな？沖縄であまり興奮して血圧が「カアー」と上がりまして、具合が悪くなつてしまつたんですね。なので、ああ私も親元を離れて十年分年を

取つたけれども、親だつて同じように十年間の年取つてきたんだから今度は私が歌以外で、なにかこの人運に助けてあげられるようなこと、手に職をつけたいなと思ひまして、休んでいる間に父の出来事がきっかけで、ホームヘルパーの資格を取つたんです。ホームヘルパーの資格を取りに学校に通つて、同時に、障害者ヘルパーっていうのも取りました。なので私はその資格を生かしてお年寄りの方ではなくて障害者を持つお子さんの面倒を見させてもらいました。それは秋田ではなくて、東京でやっていたわけです。出来ることだったら休んでいた2年半、全部両親と一緒にすればよかったんでしようけれども、親っていうものはやっぱり、突然、娘が帰るとえらく心配しまして、近くにいたらいたですごく毎日気を遣つてくれる様子が見えるんですね。テレビで演歌の番組が始まつたりすると、うちのお母さんなんかは、見れば歌いたいかと傷つくんじゃないかしらとか思つて「バチバチバチバチ」消したり、こういうんな親の気遣いっていうのが見えるのでこれは、私も元氣になつたから今度は親元を離れて頑張っていくことが次のステップだなうと思つたので、その資格を生かして東京の方で、障害者を持つお子さん、全盲のお子さんもいらつしやつたし、小児麻痺の子とか、いろいろな体に不自由を抱えたお子さん、学童

共に語り考える ふるさとの水・土・里

保育というと分かりやすいですがね。小学校終わってから、預けられる場所があるんですが、そこでお子さんの面倒をすつと見させてもつていました。

全国各地で

コンサート中です。

そんな中レコード会社さんの方から「公水ちゃん、もし今体が元気になったらだったら、もう一回歌わない」とお声掛けいただいて私の新たな道が始まったわけですが、その日々の中で復帰の記念のアルバム「光の射すほうへ」っていうものも出させていただくこともできましたし、「この間まで、アルバム発売を記念したコンサートを全国5カ所ですべてもらっていたんですね。残念なことに秋田でのコンサートはまだないんですけども、今回のコンサートはとつても歌が柔らかい世界、声を張り上げるものではなくて柔らかい歌を歌ったのが多いアルバムだったので、コンサート会場は、教会だったんです。教会とかライブハウスでやるコンサートを全国5カ所ですべていただきました。また、本当に自分自身ももつと大きい歌い手になって、一日も早くふるさとでコンサート開きたいっていうのはもちろん持っている大きな夢でもありますので、今日来てくださったみなさんに私自身も何一つ隠し事なく、今日までの道の

りを本心にまっすぐにお話させていたいたつもりです。これから先頑張っていく日々を、「また岩本公水、元気に歌ってるなああ」という様子をコンサートなどを通して見ていただけたらうれしい。一生懸命頑張っていくたいなあと思います。(拍手) どうもありがとうございます。

故郷を想い続けて

頑張ります！

あの今日は主催が「みどり」という水士、里、みどりという字が入っていますけれども、私の名前も水という字が入っています。これはなんで水っていう字が自分の中に入ったんだろうかと最近考えることがすごく多くなりました。最初は、岩石の岩で、基本の本で、公務員の公に水つてそりやあかたいたろうと思つたんです。どこに行つても公水(こうすい)さん、公水(こうすい)さんって言われて、スタートしたので、最初はなかなかこの名前を好きになることができなかったんですが、今時間が経つて、年齢を重ねてくると、この公水っていう字はなんとも特別な意味を持つて私にきてくれた芸名なんだろうなあ、名前なんだろうなあと思えるようになってきました。さつきも木々の間から木漏れ日、キラキラ光る光を感じたつていうお話をさせていたいたいたんですが、やっぱりこの水っていうのは、水がなければ

私通生きていくことができないわけですから、また故郷に帰つて、ああ、あの川を見たいとか、あの海を見たいって思うようなそんな故郷がいつつまでも私の故郷であつてほしいなと思います。地元には、私の地元には、西馬音内盆踊りという素晴らしいお祭りがありまして、休んでいる間も見に行きました。実際ゆつくり見るまでは私はみんなに言伝したいと思つていたお祭りなんです。でも、実際そのお祭りを見てみるとあまりに素晴らしいので、これは秘密にしておきたいなと思つてくら本場に私の生まれたこの秋田という所には、いいものがいっぱいあるなあって休んだからこそ実感しました。ふるさとっていう場所は、何かに蹴いたり、何かに自分自身が戸惑つたりしたときに、帰つてもいい場所なんだなあって思えるように



になったことが私の一番の休んでいる間の進歩だったんじゃないかなと思います。今日は、その私の元気な様子を兄に羽後町から両親もどつかに来て座っているはずなので、なんだかこんなことを話してもよかつたのかななんて思つたりもしましたが、また、こうしてせつかくだいたいたこの機会を私自身も忘れることなく、一生懸命歌っていくたいと思います。今、インフルエンザですから、みなさんもぜひ、お家に帰つてからちゃんと、手洗い、うがいちゃんとしてください。そしてまた、元気に私もお会いさせていただけるその日まで、故郷を想い続けながら、大事に大事に頑張っていくたいと思います。未永い応援をどうぞよろしくお願いいたします。(拍手)



「文鳥」軽やかない歌です。

さあ、それではこれで帰るのも随分寂しいので、歌いましょうね。今日は、今頑張っている歌で「文鳥」という歌があるんですが、うちから文鳥を連れてきました。ここに、グッズを最近作ってもらってしまして、そういうバッグとか、Tシャツとか、いろんなの作ってもらって、自分で絵を描いたんです。文鳥のつもりで描いたんですけど、みなさんに「ひよこですか？」とか、おがしよなあ。「ズンギンですか？」とか言われるので、文鳥なんですよ、今「ゆるキヤフ」が流行ってるらしくて、あんな感じで絵を描きました。でも、今日は鳴く文鳥も連れてきましたので、「こにせひ鳴き声を聞いていただきたい」と思います。(文鳥の鳴き声)これ「パードール」って言うんです。私、趣味の一つに登山があるんですけど、まだ地元の高海山も登ってないのに、去年、富士山に登ったんです。富士山に登ったらまあ、山が本当に好きになりました。山シヨツプによく行くんですが、登山シヨツプに行くときこれ売ってるんです。何をやるものかと言ったら、山の中で自然の中で「チンチンチンチンチン」って鳴らすと、鳥が仲間と呼ばれたと思っていろいろいっしょに寄ってくるわけですよ。そこを双眼鏡で覗いたりしてパードウオツ

チングする方なんかさすくこれを持って歩くらしいんです。今は、文鳥で歌をみなさんに覚えてもらいたくて、こうやって、スタンドマイクにして、鳴らしながら歌っているの、これもグッズとして作ってもらいました。今日は、どれもこれも売るほど用意してるみたいなので、こつゆうのもありますから、ぜひまずは一度「文鳥」って歌聞いた方も多いいと思いますから、覚えていたいただけるように一度お届けしたいと思います。

曲調はルンバです。ルンバなのでテンポあるとても軽やかない歌です。「文鳥」お聞き下さい。

9月は秋田にまた来ます!

やっぱり、喋るより歌の方が楽ですよ。喋りはどうなることかと思いついて、皆さんには見えないと思うんですが、この辺が汗タラタラで、ああ終わってよかったなと思えます。ああこやこや(拍手)ありがとうございます。今月はね、秋田に寄せてもらう機会がたくさんあります。皆さんも今日もそうですが、来週は男鹿の方に行ってカラオケ大会に参加させてもらいます。そのまた一週あとは、うちの羽後町の方と割と近い横手の山内という所で、「いものご祭り」があるんです。そこで歌ってしますので、どうかみなさんお時間あ

りましたら再来週かな?ぜひお越し下さい。そのいものご祭りの夜は、私自身が今、「星の語りへ」っていうABSラジオをやらせてもらってまして、ちょうど山内の日は月曜日なので秋田のABSさんで生放送する」といなるんであります。もしよければFAXとか何か手紙で一公水ちゃん、応援して下さるとか寄せてもらえば嬉しいですね。生放送してありますから、何かいつもと違う形でその「星の語りへ」っていうラジオ、夜9時から9時半までの30分間ですから、ラジオの方もお付き合いいただければ嬉しいなあと思います。さあ、それでは続いている歌なんです。この「文鳥」という歌の二つ前に頑張っていた歌で、カラオケ好きのみなさんにちよつとずつ歌ってもらえるようになってきました。私も大好きな歌「恋風」お聞き下さい。

(※歌あり)



ありがとうございます。秋田のみなさんは暖かいですね。おつきい拍手をもらってありがとうございます。うちの父さん一人だ、ムスツとしながら自分の娘の歌になにかこう不満なんですよ。うね。小さいときから一生懸命教えてくれる父だったので、なにか「あそこのころは、もつてこつちよつて歌えよ」とか思いついて、きつと聞いてるんじゃないかなと思います。さあ、それではもう一つ、さつき話の中で復帰のアルバム、記念のアルバム「光の射すほうへ」って

共に語り考える ふるさとの水・土・里



ありがとうございます。さあ、時間の方もほちほちですかね。あの、最初に聞いていただいた「文鳥」おかげさまで5月の発売だったんですが、皆さんからのお声があつて、発売してすぐ有線放送1位ということで出発したんですね。(拍手) たまげるべ。本当、私も1位で出たときに「嘘？」なんて思いながら、ラジオとか有線とかで聞いてると誰か歌ってるんだらうと思って思うような歌謡曲に聞こえるらしいんですね。演歌じゃなくて。だからとっても心地よく聞こえますなんて言葉をよくいただくんですが、元々は夏目漱石の小説「文

夏目漱石の小説

「文鳥」が原作



鳥」を作ったっていう話をしましたが、このミニアルバムは、今頑張ってる「文鳥」っていう歌もこのアルバムに最初入れたんです。そしてら全国のみさんから、「文鳥いいね」という声が続分大きくなつてきて、シングル発売することになったんです。だから、なかなかアルバムとはいえ、いい歌いっぱい入ってると思いますので、今日は、私の好きな歌をこの中から二つお届けしたいと思います。「國の返返し」という音詰ありません。『國の返返し』という音詰ありません。『國の返返し』という音詰ありません。『國の返返し』という音詰ありません。

(※歌あり)

鳥がもたなくて離された歌なんです。でも、歌詞は少しアレンジしてされていまして、愛し合ってる男女が居ます。この男女が可愛がってるベットの文鳥なんです。この女性の名前がちよさんといいいます。今日、ちよさんって方いらつしやいます。ちよさんとか？ちよえさんとかが？いねなあ。残念だあ。このちよさんって女性が主人公なんです。ある日どうしたことがちよさんの前から愛する男性が姿を消してしまつたんですね。亡くなつてしまつたのが、どこかに行つてしまつたのが、ちよさんひとりほつちになつたとき可愛がってた文鳥まで逃げてつてしまつたんです。そうするとちよさんは、「ああ私は今一人になつて

しまつたんだな。目を閉じただけで愛していたあの人が私のことを、ちよと呼んでくれた声、そして文鳥がちよちよちよちよって囀っていた声が今でも聞こえてくるよつたわ。私はもうその声を聞くことはできなのね」という寂しい歌です。けれども、曲調がルンバなので寂しさだけではなくて、聞いてくれる皆さんがああ何だか柔らかい優しい、いい歌つたわね。と三つていただけるとような歌になればいいなと思つて、私も自身も歌つて歩いていきます。どうか今日来てくださったみなさんが「公水ちゃんの、文鳥いい歌だったよ」と帰つてからもたくさんの方に声を届けていただきますように、私もそれをせひせひ、

お願いしながら心を込めてもう二度お届けしたいと思ひます。(拍手) ありがとうございます。私も今日これが終わつてから東京に帰るだけなので、時間もつたいないですからまた時間の許す限り、入り口の方まで走つていきます。ですから、どうか時間のある方握手していただくのもいいです。山ほど商品も売つてるようですからぜひ足を止めていただければ嬉しいなと思ひます。では「文鳥」お届けします。

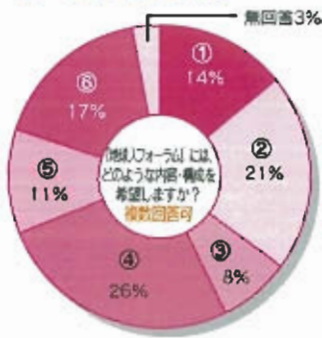
(※歌あり)

今日は、とても大事なお時間をいただきました。本当にありがとうございます。



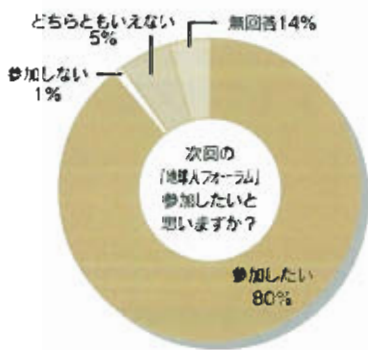
「地球人フォーラム2009」アンケート結果

9. 今後の内容

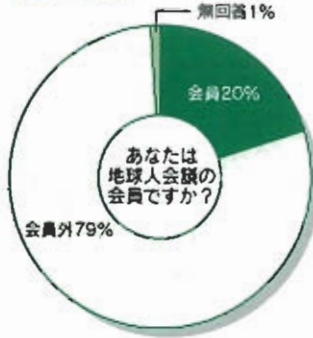


- ① 有識者による基調講演など
- ② 県内の様々な分野で活躍している方々の紹介(事例発表)
- ③ パネルディスカッション
- ④ 有名人(芸能人)による講演
- ⑤ 体験学習や実習活動を行っている小学生の意見発表
- ⑥ 歌や芝居などのアトラクション的なもの

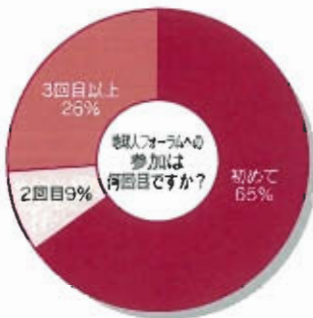
10. 次回の参加



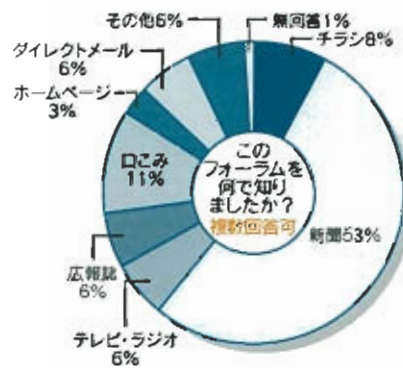
5. 会員



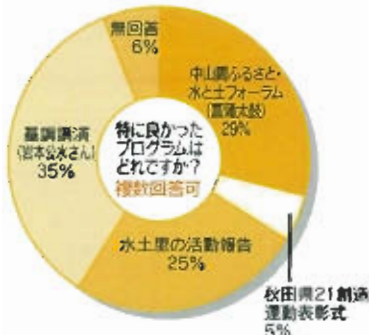
6. 参加回数



7. 開催案内



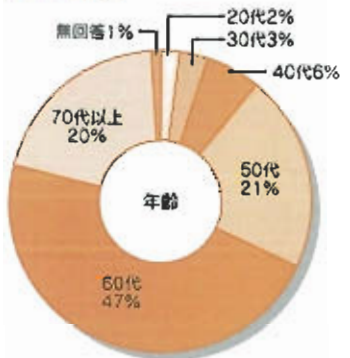
8. プログラム



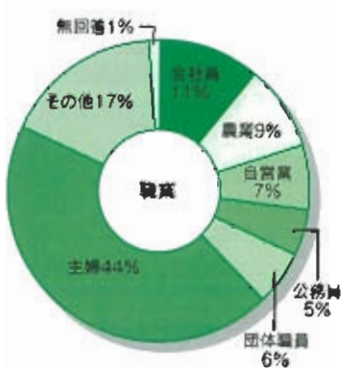
1. 性別



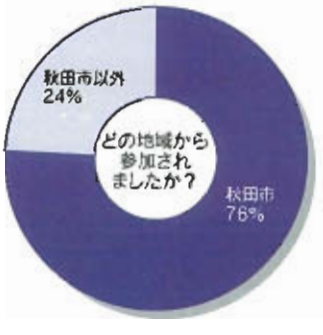
2. 年齢



3. 職業



4. 地域



共に語り考える ふるさとの水・土・里

Voice

参加者の声

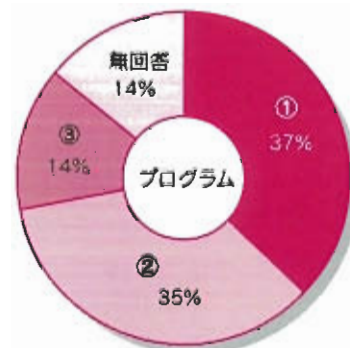
- プログラムの時間配分がとても良い。大変楽しませて頂きました。農業を親の代から営み、今夫婦で少しばかりの野菜作りをしています。最近の天候を見る時、水土里の大切さを痛感しています。一人一人の水土里の認識を11日、とても勉強になりました。(50代・女性)
- 水源と森林の果たす役割についての説明がわかりやすくて良かったと思います。(60代・女性)
- 初めて来てみてとても良かったです。もう少し会場が広く大勢の方が見られるともっと良いですね。地域芸能、地元のパネラー、岩本公水さんともに良かったです。秋田の方々に広く見てもらいたいです。(40代・女性)
- 水土里ネットが率先して小中学校に農業体験の場を提供していることは素晴らしい活動だと思います。もっと全国的に取り組んでいただくと秋田の元気にもつながると思います。(40代・男性)
- 農業を消費者にPRする活動は重要ですが、水土里ネットはその活動を熱心にやっています。頑張って下さい。(60代・男性)
- 素晴らしい講演でした。今回初めて参加したのですが、次世代につなげるように美しい環境作りに少しでも協力したいと思います。こんなに素晴らしい自然がある秋田であることをもっと若い人達にも知ってほしいことと秋田の住み良さを実感できるような社会であってほしいなと思います。秋田出身の岩本公水さんは是非応援したいと思いました。ととても素晴らしいフォーラムでした。来年も是非参加できたらと思っています。(40代・女性)
- 土地改良の事、細やかな仕事、運動に小・中学生が参加していることを知り賛同しました。今更ながらと思うが森水土を大事にすべきと全体的に学ぶべき事が多々あり、太鼓演奏の迫力には驚きナレーションも最高でした。(60代・女性)
- 土地改良も森林ボランティアのような制度を創設し水土里に関するボランティアに参加した回数をポイントを付し一定以上のポイントの人に品物を贈るなどしたらいいかが。(60代・男性)
- 地道な取組素晴らしい。11回という継続性でじわじわとその大切さが浸透してきていると思います。私たちの水土里を末長く後生に引き継いでいくために秋田の食をしっかりと消費することで支えとし運動を広めていければと思います。(50代・男性)

11. フォーラムの評価

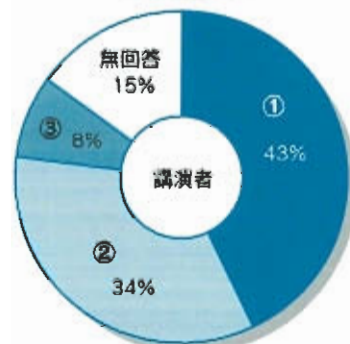
※フォーラム各項目に関するアンケート

①とてもよい ②よい ③ふつう ④ややわるい ⑤わるい

(1) プログラム



(2) 講演者



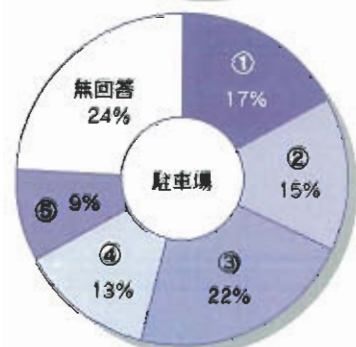
(3) 開催時期



(4) 会場



(5) 駐車場





水土里の郷

わくわく探訪

用水の働きを
探訪しよう

農業用水がどのようにして確保・供給されているか、その様子を現地で実際に観察し、土地改良施設の果たす役割や農業用水の安定供給に費やす関係者の努力等を学び、農業及び水土里ネットに対する理解を深めてもらうために6月27日（土）、「水土里の郷 わくわく探訪」が、美郷町、大仙市で行われた。秋田市と大仙市の小学生とその保護者65名が参加し、一行は最初の訪問地の美郷町役場（六郷庁舎）へバスで向かった。美郷町では、松田知己町長が「ここ六郷では町の至る所できれいな清水が湧いており、実際に見て、触れて水の大切さを学んでほしい」と言の歓迎挨拶の後、ホランテイアの案内で町内の湧水群を見学した。各湧水ではハリザッコ（イバラトミヨ）を観察したり湧水に





手を入れて、その冷たさを実感したり、口に含んで味わったりと思いきいの感想をノートに書き記した。

その後、地域の重要な用水源である「仏沢ため池」に向かい秋田県七滝土地改良区の武藤威理事長、藤岡義博事務長の説明に聞き入りながらため池の大きさときれいに整備されたため池に感心していたようであった。

次に、ため池等からの用水を取水する関田頭首工と用水を均等に分配する関田円型分水工を見学した。円型分水工は初めての子供も多く、1800個あるオリフィス（孔）から流れ出る水に思わず手をやる（通常は禁止）子供が多かった。

昼食の後、大仙市に移動し、秋田県仙北平野土地改良区で用水管理システムを中心に説明を受けた。土地改良区の受益面積が約10,000haと聞いても実感のわかない子供達も用水管理センターの制御室を見学すると思わず感嘆の声をあげていた。

見学を終えた後、次回も是非参加したいという参加者の声スタッフが疲れを癒してくれた。



わくわく探訪について

大仙市立神宮寺小学校5年 嵯峨 明歩



わたしは、初めての「わくわく探訪」に参加しました。「おもしろそつだいな」と思ったので、申し込んでみました。

はじめて行った六郷湧水群では、「水」について学習しました。美郷町の六郷地域には、たくさん湧水があります。湧水の名前は、住んでいる人の名前が使われることが初めてわかりました。それから、私が見た湧水の中で「面白かったのは」

「キヤム」湧水です。じゃ口から出たお水は一年中、十三度から十五度くらいです。夏は冷たく感じ、冬は温かく感じます。わたしはこの話を聞いて「不思議だな」と思いました。

次に、仏沢ため池に行きました。ここでも「水」について学習しました。仏沢ため池は、東京チームの面積、約二百個分の田んぼに必要な水をためておられる、びっくりしました。

またこの池には、たくさん生き物がいることも、びっくりしました。最初は仏沢ため池を見たときは「きれいな水だ」と思いましたが、たくさん生き物がいることを聞いてきれいな水だと思いました。

次に行ったところは、関田田型分水工と関田頭首工、そして仙北平野用水管理センターです。この「田型分水」とは、「水の大切さ」です。水がないと、お米や野菜が育たなくなるため、食べることができなくなるので、水はなくてはならないものだと思います。わたしは、この「わくわく探訪」に参加するまで、何となく使っていた水がこれだけ大切なものが分りました。この探訪をきっかけに、水を大切にしていきたいです。これからも、このように学習が得意なものがあったら、参加したいと思います。このわくわく探訪で学んだことを、これからも活かしていきたいです。

わくわく探訪で思ったこと

秋田市立川尻小学校4年 甘野 出帆

去年のわくわく探訪から一年、私はこの日をとても楽しみにしていました。去年は、兄だけが行ってとても楽しかったのですが、今年は自分も行きたいと思っていました。そして参加は四年生からと知り、わたしはとてもうれしかったです。

最初にグループに分かれ、六郷湧水群へ行きました。道をしばらく歩いていたら、途中途中に池があり、さわたり、飲んだりしてとても楽しかったです。

次に関田田型分水工の場所へ行きました。田のまわりに小さな穴



があいていて、そこから水があるれていたのです。とてもびっくりしました。

ご飯やみそ汁をのこすと、そのせいで、川がきたなくなるという話を聞いて、私はこんなところ、おかすをのこさないようにしたいと思いました。食べのこしたくない、シャワーのお湯も、出しっぱなしにしないでちゃんと止めて、かみの毛や体をあらったり、歯をみがいたりしたいです。そうすることで、川がきれいになって、生き物がたくさん育ち、地球が元気になると思います。

地球がきれいになると、私達が大人になった時も、きれいな水が六郷湧水群にわきつつけると思います。六郷湧水群のきれいな水をたやさないように私達は、毎日小さな事から、しっかりと行っていきたいと思っています。それが次の時代に、きれいな水をのこす事にもつながります。



地球人会議

ユリネット

水と土の郷 わくわく探訪
- 用水のはたらきを探訪しよう！ -
平成27年9月27日(土) 美郷と 仙北平野用水を学ぶ地球人会議 水と土ネット秋田

農業用水を利用した小水力発電

全国土地改良事業団体連合会

いま、なぜ小水力発電か？

近年、温暖化等の地球規模の環境問題が課題となっており、世界各国が協力して環境問題を解決するための取り組みが始まっています。

平成9年12月には京都で第3回気象変動枠組み条約締結国会議(COP3)が開催され、先進国の温室効果ガス削減目標を盛り込んだ「京都議定書」が採択されました。

これを受けて、わが国は温室効果ガスの約8割を占めるエネルギー起源のCO₂の排出量を、平成22年度までに平成2年度と同水準に抑制する目標を設定しました。

この目標を達成するには、省エネルギーの推進等のほか、石油・石炭等CO₂を排出する化石エネルギーから、太陽光・風力等の新エネルギーや、中小水力などの非化石エネルギーへの転換が必要とされています。

全国の水土里ネット(土地改良区等)が管理する農業用ダム、水路などの農業水利施設には、小規模な水力発電への利用の可能性がありながら、まだ利用されていない落差等が数多くあると考えられます。

水力発電は、純国産の再生可能なエネルギーであるとともに、発電過程においてCO₂を発生しないクリーンなエネルギーです。

農業水利施設の落差等を利用した小水力発

電を設置することは、施設の維持管理費の負担軽減に役立つだけでなく、環境への付加の軽減にも資することになります。また、環境への付加軽減に資する小水力発電は、クリーンエネルギー活用による社会貢献を通じた地域振興のきっかけとしても期待されます。各地の水土里ネットにおける小水力発電への積極的な取り組みを期待します。

農業用水を利用した小水力発電への期待

- ・地域振興の「きっかけ」としての期待
 - 一地方施設への自前の電力供給による経費節減
 - 一クリーンエネルギー活用による社会貢献
- ・新たな事業分野としての期待
 - 一小水力発電技術は発展途上
 - 一可能地点は国内各所に存在?
- ・地球温暖化防止に貢献するエネルギーとしての期待
 - 一環境問題に対する社会的な機運の高まりと京都議定書批准
 - 一水力発電は純国産で再生可能なグリーンエネルギー
 - 一RPS制度の制定による電気事業者のCO₂排出削減の義務化

小水力発電とは？

1. 小水力発電の定義

水力発電は、出力の規模によっておおむね次のように区分されます。

水力発電の区分

区分	発電出力
大水力	100,000kW以上
中水力	10,000kW~100,000kW
小水力	1,000kW~10,000kW
ミニ水力	100kW~1,000kW
マイクロ水力	100kW以下

しかし、単に「小水力発電」と言った場合に、厳密に定義されているわけではなく、数十kW~数千kW程度の比較的小規模な発電(一般的には2,000kW以下)の総称として用いられています。

農業農村整備事業においては、ダム、頭首工、水路等の農業水利施設における落差と流量を利用し、農業用排水施設の一工種として設置される水力発電であって、おおむね次のような規模に該当するものを「小水力発電」と言っております。

参考:『小水力発電事業化へのQ&A(改訂版)ーグリーンエネルギーとしての検討ー』平成17年3月、(社)農業土木機械化協会発行

農業農村整備事業における小水力発電の規模

事項	規模
発電出力	20~2,000kW
有効落差	3~200m
流量	0.2~20m ³ /s



3. 水力発電の基礎知識

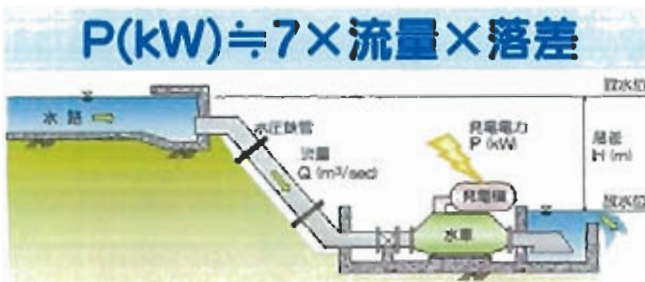
水力発電は、水の持つエネルギーを電気エネルギーに変換するもので、発電電力は、流量と落差に基づき、次の式で計算されます。

この式より、水力発電は、流量と落差が大きいほど豊富な発電量が得られることが分かります。

水の持つエネルギーを電気エネルギーに変換

$$P(\text{kW}) = 9.8 \times Q(\text{m}^3/\text{s}) \times H(\text{m}) \times \eta$$

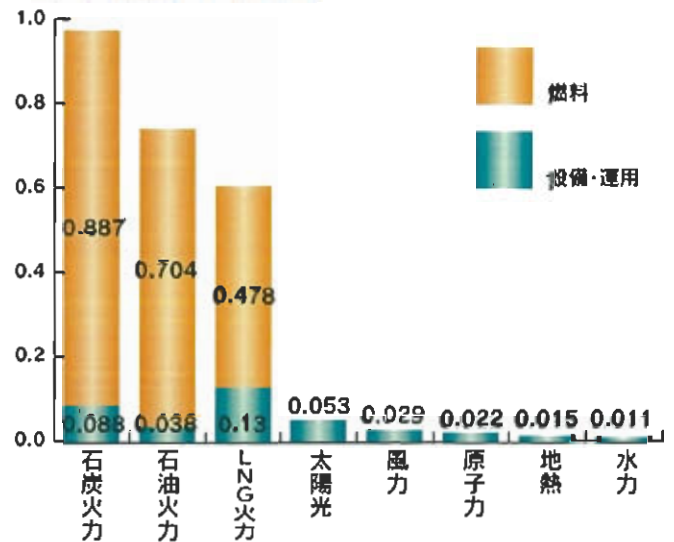
P(kW): 発電電力, Q(m³/s): 流量, H(m): 有効落差
η: 効率(発電機や水車などの効率≒0.72)



2. 小水力発電の特徴

水力発電の特徴として、CO₂排出量が極端に少ないクリーンなエネルギー、貴重な純国産エネルギー、繰り返し利用できる再生可能なエネルギーであることが挙げられます。これらに加え、小水力発電は、建設時の環境負荷が少なく、短期間で設置が可能、地方分散の小電力需要に臨機に対応が可能であることも大きな特徴としております。

日本の電源別CO₂排出量 単位: kg-CO₂/kWh



4. 水力発電のメリット

例えば

落差H=20 (m)、流量Q=0.4 (m³/sec) を利用した小水力発電では

$$P \approx 9.8 \times 0.4 (\text{m}^3/\text{s}) \times 20 (\text{m}) \times 0.72 = 56 (\text{kW})$$

の発電が可能です。

年間発電量 = 56 (kW) × 24 (hr) × 365 (日) × 稼働率 (平均55%) = 27万 kWh

農業用水は、かんがい期・非かんがい期の水量差が大きいことに留意が必要

電力供給量の目安

1世帯の年間電力使用量 (試算値)
4,200 (kWh/年) ※

↓

約4世帯分の電力に相当 (参考試算値)

二酸化炭素削減の目安

1 kWhの水力発電で
0.555 kgのCO₂を削減※

↓

150 tの二酸化炭素の削減に相当 (参考試算値)

※ 家庭での年間電力消費量 = 1.937億kWh (環境白書より) ÷ 4.600万世帯 = 約4,200kWh/年

※ 1 kWhの水力発電で、0.555 kgのCO₂が削減 (環境省「脱炭素社会の実現に向けた電源・燃料・公共料金の見直し」で報告された排出削減)

農業用水と小水力発電

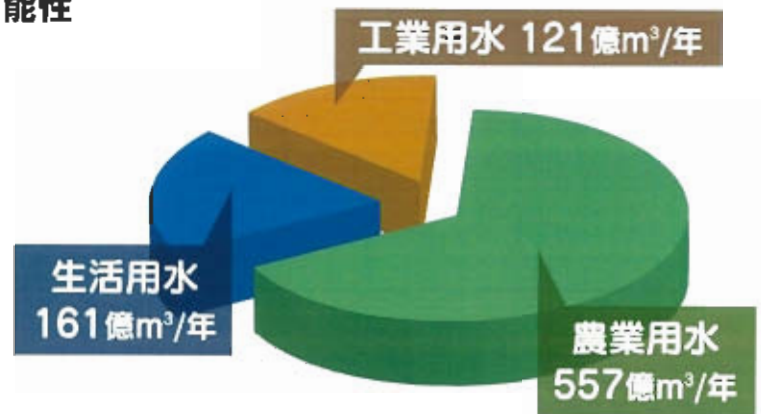
1. 農業用水を利用した小水力発電の可能性

農業用水の年間総取水量は、約560億 m^3 にのぼり、全体の総取水量の約3分の2を占めています。

農業用水路は、基幹的なものだけでも延長約4万5千kmあります。また、全国各地の水土里ネット（土地改良区等）が維持管理している水路の延長は、約26万kmあります。

これら農業用水路と、ダム、ため池などの農業水利施設には、未利用の落差や、余剰な水のエネルギーを減ずるための施設が多数あり、それらを利用した小水力発電の適地も数多くあると考えられます。

用途別年間総取水量



平成18年版日本の水資源(国土交通省水資源部)より作成

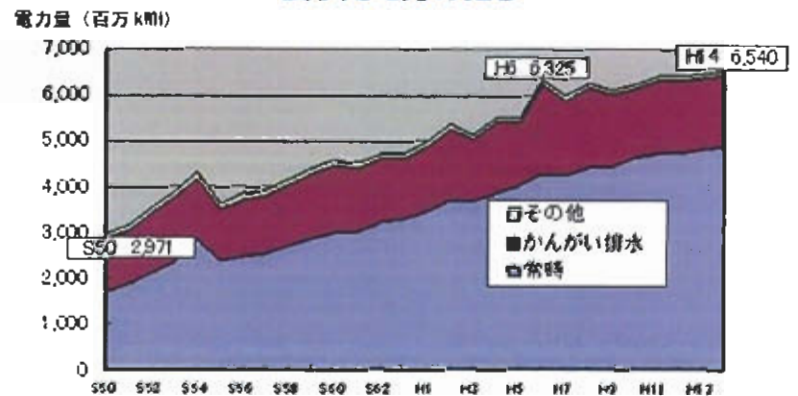
2. 農事用電力の需要動向

農業用の電力利用は、農業の機械化や施設化の進展に伴って増加の傾向にあり、農事用電力需要はこの30年間で2倍以上に増加しています。

ポンプの運転やゲート操作などに利用する「かんがい排水用電力」は、農事用電力の中で大きなウェイトを占めています。

農村地域において、電力を動力源とする施設は増加する傾向にあり、今後も農業用の電力需要は高まっていくと考えられます。

農事用電力の推移



3. 農業用水を利用した小水力発電の効果

水力発電には、エネルギーの石油依存度の低減やそれを通じた地球温暖化防止への貢献など、エネルギー問題に関わる多くの効果があります。

それらに加え、農業用水を利用した小水力発電は、水土里ネットや地方公共団体が、自らが管理する農業水利施設と農業用水を利用するものですから、農業水利施設の操作用電力の供給による維持管理費の軽減や、地域の農業用施設や公共施設への電力供給を通じて地域振興・活性化に寄与するといった効果も期待されます。



『2009』

秋田県中山間

ふるさと・水と土

現地見学会』

現地見学会は、秋田県中山間地域土地改良施設等保全対策事業（略称：ふるさと水と土事業）で毎年開催しているもので、今年が6回目となる。

この見学会の開催は、県内中山間地域の農業や地域資源・魅力について広く県民の方々に理解・関心をもってもらい、農地や土地改良施設の保全・利活用に係わる諸活動への参加促進を目的としている。

今年度は平鹿管内で旧大森町と旧雄物川町を舞台に、新聞等で募集した68名の参加者のもと9月5日（土）に開催した。（協力：

山城水系土地改良区・横手市、後援：水土里ネット秋田）

旧雄物川町



地元のみならず全国各地で活動がされている旧雄物川町在住の辻田与五郎氏。自らの農業での失敗談や血液型別の特徴をもとに一定の法則を見だし、政治家の力関係の分析した日本初の血液型漫談を披露してくれた。



市指定無形民俗文化財の「岡本新内」は、当初「保存会」によって継承されてきたが、同会の活動が高齢化により先細りとなってきたため、中学生を中心とした「伝承会」を設立した。そして、現在「岡本新内」を後世に伝えていくために活動を展開している。



「沼館・今宿御利益通り」は地域おこしの一環として企画されたもの。

当日は、写真左から「蔵光院」「木戸五郎兵衛稲荷神社」「崇念寺」の3カ所を巡り、御利益を祈願した。（各御利益は、蔵光院：五穀豊穡・諸願成就、稲荷神社：五穀豊穡・挑戦成就、崇念寺：必勝祈願・成就祈願）

に触れ暮らしを感じる— と恵みの郷紀行

今回は、地域文化「農村漫談」、伝統芸能「岡本新内・八沢木獅子舞」、地域の歴史「御利益通り（木戸五郎兵衛神社・崇念寺・藏光院）・雄物川民家苑」、食文化「地産地消弁当」、土地改良施設「山城堰頭首工」、そして、中山間地の土地利用状況として「柵田・ぶどう棚」の紹介・見学を行った。

現地での案内はすべて地元の方々にお願ひし、伝統芸能の披露を文化を育んできた柵田の残る集落の中で「中山間地の歴史と文化と暮らし」を参加者の方々に肌で感じてもらうよう努めた。

見学会終了後、参加者から「秋田の農村の良さを十分堪能させてもらったが、これを存続させていくには課題がたくさんあり、いたい自分に何ができるのか……」「普段では見ることもない所が見れてとても勉強になりました」「今まで一度も訪れたことのない場所ですばらしい文化や暮らしを知ることができました。今日の経験を友人・知人に話したいと思います」「先祖が残してくれたものを守り、伝えていきたいという思いが強くなりました。中山間地の魅力や人々の誇りを再認識できました」等の感想が寄せられた。

県では、来年度以降も中山間地域理解の啓発・普及につながる取り組みを実施していく予定である。

（秋田県農林水産部農山村振興課）

旧大森町



土地改良事業の必要性について理解してもらうために、土地改良施設の紹介と役割について説明をした。

開墾された見渡す限りの広い土地は、この堰によって昔も今も潤いを受けている。

柵田・ぶどう棚の見学をし、条件不利地とされる中山間地での農業の紹介と、多面的機能維持のための管理活動の説明を行い、都市部が享受している恩恵は地域の方々のおかげであることを理解してもらった。

そして、この自然が育んだ文化として、伝統芸能「八沢木獅子舞」を集落の一角で鑑賞した。



横手市大森町八沢木にある塚須沢集落の柵田



横手市大森町猿倉にあるぶどう棚



横手市大森町本木地区に古くから伝わる「八沢木獅子舞」。悪疫退散・豊作祈願のための神楽。

—平鹿の歴史を辿り文化
共に考え、語る伝承

河川のゴミ汚染は どうしたら防げるか

清流を取り戻し、付加価値を生み出すには

司会 本日は「NPO法人秋田サイクリングタウ
ン推進協議会」代表黒崎一紀さんをお迎えして、
県内水士里ネットが管理する農業用施設にも影
響の大きい河川ゴミに関わる問題について、本会
の水戸常務理事と「ゴミの防止と今後の展開方向
について」対談していただきます。黒崎さんは
NPOの活動を通じて地元、河辺・雄和を流れる
雄物川のクリーンアップにも積極的に取り組んで
いらつしやいます。

水戸 昨年8月、千葉工業大学吉村和就先生を
お迎えして開催した「第2回水フォーラム」はあき
た「以来ですが、お変わりございませんか。」

黒崎 そうですね。私共に身近な環境問題、特
に私が関わって来た雄物川のゴミの汚染についてで
すが、最近、思いますのは、雄物川には「ヤツメ
ウナギ」が生息しており、その生息のためには泥地、
砂地、海という多様な自然条件が必要なんです。雄
物川の汚染を防止して環境を整えてやらないと
死滅してしまいます。このことは、雄物川だけで
なく、全ての自然環境について言えることだと思
います。



水戸 日本では、水に流すと言うくらい、昔から
ゴミを河川に捨てていました。それでも汚染しな
かったのは、ほとんど自然に還るものばかりだっ
たからです。しかし、現代はプラスチック等自然
に還らない物が多くなりました。

黒崎 ネット社会ですからそ
の気になれば農家が使ってい
る水源が把握でき、もしそ
の水が汚染されている様なこ
とがあれば消費者の反発は
必至です。

水戸 生産から消費まで農
産物のトレーサビリティが
求められるようになりました。

別の観点から言えば、きれいな水で生産される秋
田米はセールスポイントにもなります。

黒崎 P・L法により工業製品等は製造者責任
を問われるようになりました。米についても例外
でないと思います。水田からの排水を休耕田を利
用して沈殿させ、きれいな水を河川に排水すると
いう思いやりも必要だと思えます。



秋田県土地改良事業団体連合会
常務理事 水戸 憲光



水戸 間伐材を炭にして浄化に使うという方法もあります。

黒崎 できるだけランニングコストのからない浄化方法を考えないと。河川への排水直前のところで土地改良区の協力を得ながら沈殿の実験を試みたい。

水戸 水への思いを込めた秋田県の農産物の評価を高めるため排水浄化の二環として、「水張り減反」という方法もあると思う。

黒崎 環境に考慮した県農政を引っ張って行く必要がありますね。

水戸 安全、安心な農産物の生産には良質な水の確保が重要であり、行政と一緒となった長い期間での取り組みをしたい。

黒崎 秋田県産米が消費者に正当に評価されているだろうか。そのためには消費者の厳しい目に耐えられるよう水質管理をしなければならぬ。

水戸 県内の河川はすべて県内で完結している。県民の汚染防止に対する意識はもとより水の管理者である土地改良区が地域のゴミ対策に積極的に関わって来れることに期待したい。

黒崎 用排水を素堀水路を通す工夫をしてみてもいい。

水戸 地域の住民が皆で利用できる地域用水として、「小川のせせらぎ」の復元があってもいい。効率追求の営農から環境にも配慮した営農に変わってきている。若い人達



希少生物に余り関心がないかもしれないが、農地・水・環境向上保全対策は地域を見直すきっかけとなっていると思う。

黒崎 雄物川の汚染はかなり進んでいる。県民全体の協力が必要だと思う。

水戸 河川の浄化については、堤防はNPO等の一般市民でもできるが、本流については行政の事業化した予算がなければ解決できないと思う。まず、支流である農村の意識改革から始めることが必要。水を汚さないということは農業者の責務。混住化社会で地域住民と一体となって水質汚濁防止ができて完結する。

黒崎 ゴミがゴミを呼ぶので、早めの対策が効果的。自らやるのが大事。人から云われてやるのでは長続きしない。汚れた水の米は消費者から拒否される。減農薬、良質な水は最大のセールスポイントであり、アユ、スズキ等とセットで売り出せる。75才以上の高齢者は、清流の生き字引者であり、生存中に昔の清流を取り戻したい。タニシ、イナゴ、ドジョウ等が汚染により手にはいらなくなり、昔の食文化が廃れている。これらの復活により秋田らしさがアピールできる。

水戸 四国の四万十川のような清流を売りとした観光ビジネスにも結びつくと思う。

黒崎 地域では、岩見川を誇りに思っている。ブランド米にできると思う。

水戸 消費者、県民にアピールするものがないと、県民運動として盛り上げへの工夫の必要性を感じる。



NPO法人
秋田サイクリングタウン推進協議会
代表 **黒崎 一紀** さん

※P-L法（農産物責任法の略称）

黒崎 クリーンアップもかけ声だけでなく、行動が伴わないと長続きしない。

水戸 ゴミゼロのキーワード「協同と気概」でやって行くべき。

黒崎 目指す方向は判る訳だから自分たちは正しいことをやっているんだという気概をもって取り組むことが大事。土地改良関係者の意見発表、情報交換に期待したい。

水戸 まず身近にできることから始め、成果を示しながら行政を巻き込んだ大きな運動の輪にしていければと思います。水土里ネットが目指す新たな役割に向け会員共々、重要な活動として位置づけて取り組んで行けるよう頑張ります。本日はどうもありがとうございました。



ゴミで苦しむ水土里ネット

管理施設に大量のゴミ

——大仙市神宮寺松倉堰土地改良区——

大仙市神宮寺松倉堰土地改良区は、本県の有数の穀倉地帯仙北平野の北部に位置し、1級河川の玉川、雄物川により形成された平野で、地区の用水は玉川から松倉堰頭首工より取水し、標高222mの松倉岳を中心とする丘陵地帯の裾野を延長約13.6Kmの幹線水路が南北にはしり、約1,400haの水田を潤している。幹線水路が山際を通っていることもあり流木、枯葉等の流入は止む得ないとしても近年、タイヤ、ビニール、ビールケース、トタン板、ゴミ袋に入った家庭ゴミ、紙おむつ、空き缶、野菜屑、障子、単筒の引き出し等枚挙に暇がないほど色々なゴミが流れて来る。

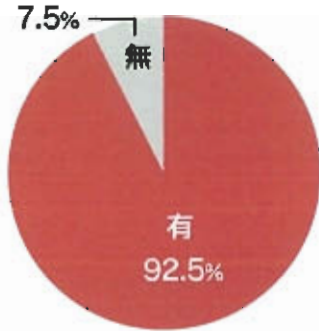


毎年、広報でゴミを捨てないようにお願いし、「水資源は地域の財産です」の立て看板を随所に設置し、農業用水路の適正な管理の周知徹底を図っているが、実効のあがっていないのが実態である。これらの処理については、各分水工毎に人力でゴミ揚げし、軽トラックで運び出しているが、その経費は組合員の負担となっている。農業用水路のゴミ汚染は、流域の住民のモラルの向上なくして防止することはできないが、元はと言えば行政が対応すべき問題で、農家及び土地改良区がその後始末をしなければならないのは納得できないものがある。せめて除塵機の設置について行政の支援をお願いしたい。

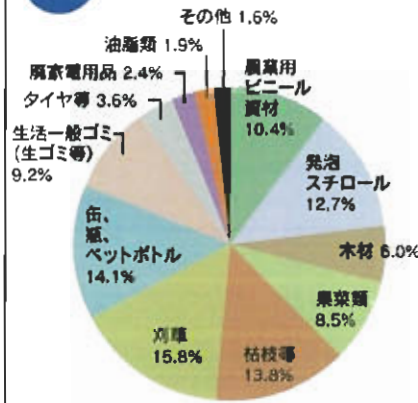


農業用水利施設にかかる浮遊ゴミ等対策についての調査結果

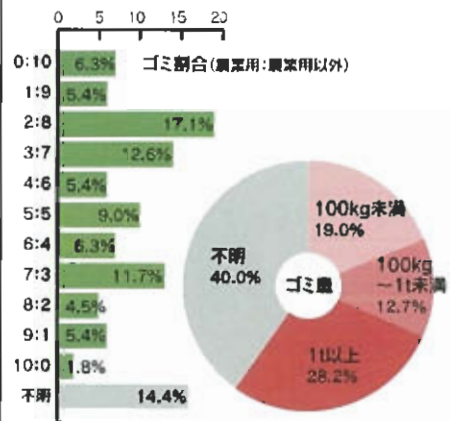
Q1 買団体が管理する農業用水利施設において、浮遊ゴミ等が見られますか？
 [有]の場合はQ2以降へ [無]の場合はQ5以降へ



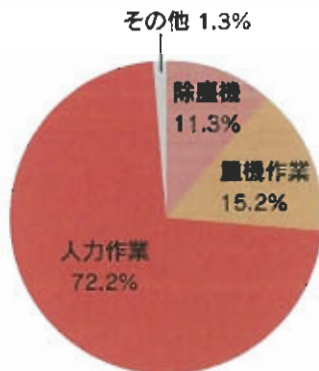
Q2 浮遊ゴミ等の種類は何ですか？
 (複数回答可)



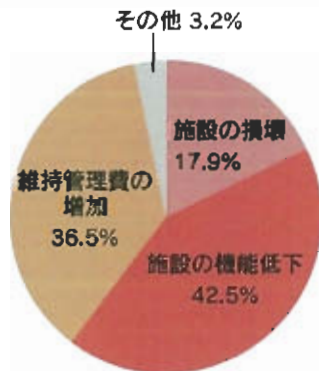
Q3 浮遊ゴミ等の量について教えてください。また、分かる範囲で結構ですので農業用と農業用以外のゴミの割合を教えてください。



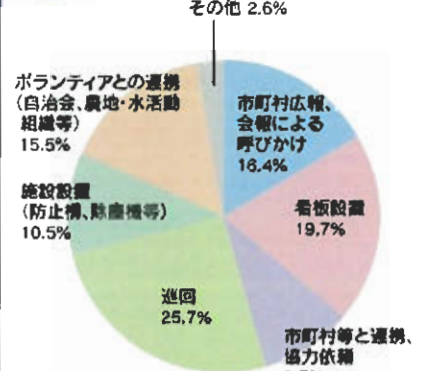
Q4 浮遊ゴミ等の主な除去作業方法は何ですか？(複数回答可)



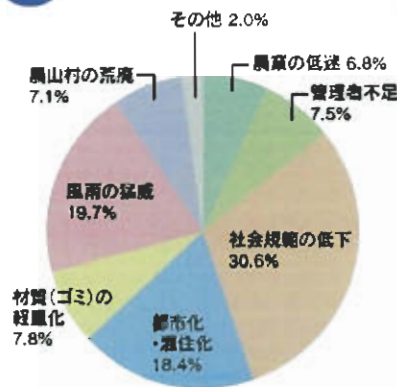
Q5 浮遊ゴミ等が及ぼす施設への影響について教えてください。



Q6 浮遊ゴミ等の対策方法を教えてください。



Q7 浮遊ゴミ等の発生原因をどう考えますか？



Q8 今年度における浮遊ゴミ等の処理について教えてください。

Q8-1 記録が有る場合

処理量 / 100kg～6.32t
 経費(千円) / 処理費 / 3～3,381千円
 処理労賃 / 15～1,000千円
 対策経費 / 20～1,098千円
 合計 / 3～3,381千円
 処理時間(日数) / 3～150日
 処理方法 / 業者委託、人力作業
 (業者委託、人力作業等)
 参加人員(農業者、その他) / 1～340人

Q8-2 記録が無い場合

浮遊ゴミ等に掛かる概算経費
 (処理費、処理労賃、対策費の合算額)(千円)
25～9,370千円
 特記事項 / 浚渫を含む

ふるさと あきたの原風景を 守り継ぐために

【農村環境保全・活性化の取組】

農業・農村は、「安全安心な食べ物をつくる」という重要な役割だけでなく、地域の自然環境や、生活・文化を守っています。これを「農業の多面的機能」と呼んでいます。

例えば、水田は水を貯め、洪水や土砂崩れを防止し、ゆつくりと地下水も蓄えています。そして様々な生き物を育み、多様な生態系を構成しています。そんな美しい農村の風景は、私たちの心を和ませてくれ、教育や休養の場としても大きな役割を果たしています。





今、県内の農村では、農家の高齢化等により農業の継続が困難になっている地域が見受けられるようになりました。農業・農村のもつ豊かでかけがえのない「多面的機能」は、農業が営まれてこそ発揮される動きです。みんなで守っていかねばなりません。

ふるさとの農地を守っています。

農地を守り、適切な営農活動を行うため、地域の方々が力を合わせて水路、農道の補修や草刈りを行っています。



水路の草刈り



湧水池の管理



農道の補修

農村の活性化を図っています。

農村の活性化を図るため、地域住民も参加して景観をよくするための活動や環境学習などを行うとともに、都市と農村の交流によるコミュニティビジネスにチャレンジしています。



農地の体験学習



収穫交流会



農産物でピザづくり体験

荒れている農地を再生しています。

耕作ができなくなり荒れてしまった農地を本来の働きができるようよみがえらせ、農地のフル活用を目指しています。



再生前



再生中



再生後(紅毛苧の作付)

**農業は、
食べ物をつくり、環境をまもります。**

農地・水・環境保全向上対策

誇れる集落財産は清らかな水、豊かな土、歴史ある里、心情あふれる人

萬古清風地域資源保全隊(湯沢市)

「萬古清風」とは、集落会館に掲示している■で、古来伝承の精神を重んじ、新風の清々しい風のように清らかで永遠に持続するという意味です。この言葉を理想・目標として地域ぐるみでの活動を展開しています。歴史ある農村で培われてきた相互扶助・協働精神を後世に引き継ぐため、新たな体制づくりを模索しています。

地域の声

活性化のためには、地域全体の将来像を掲げ、どうしたら良いか、どこまでならできかを、とことん話し合うことで、世代の枠を超えたやりがいのある取組になると感じています。次世代を担う若者には技術の伝承、子供たちには楽しいふるさとの思い出づくりを提供できるよう一層頑張ります。



神社祭典での「やっこ祭り」



水田稲作



収穫・食味体験交流会

耕作放棄地再生利用緊急対策

耕作放棄地を活用して「ソバの里」づくり

鹿角地域協議会(鹿角市十和田末広地区)

当市では、農業従事者の高齢化等により畑地の耕作放棄地が増加傾向にあります。その解消対策として、土地利用型作物の「そば」に着目し、独自の支援策として「そばの里プロジェクト推進事業」を進めています。そのような中、本地区では地元の「農業組合法人したかわら」が受け手となって再生作業に取り組みました。

地域の声

当法人では、経営規模拡大を図る上で、耕作放棄地の活用は有効な手段となっております。今年度は玄そば出荷のみですが、将来的には製粉加工を行い農産物直売所でそば亭を開業するのが目標です。



再生前



再生中



再生後(そばの作付)

中山間地域等直接支払制度

周辺農家の協力で農地を守る

高石沢協定(藤里町)

集落では、急傾斜地に翻田が形成されるなど、地形条件の不利に加えて、農家の高齢化等による耕作放棄が懸念されてきました。小規模な集落であり労働力には限界があったため、農地を守るため、周辺の農家・非農家の協力をえながら、農地の周辺林地の下草刈り等の作業を実施しています。

地域の声

耕作放棄地寸前の農地を守ることができたのも、周辺農家等の協力があつたからこそです。

加工用米の栽培も行われ、またそば栽培も検討する農家も出始めているなど、農地が守られ先祖様も喜んでいるとの声が聞かれるようになりました。



高石沢



周辺農家の協力による作業



高石沢

食・農・グリーンツーリズム・観光の連携による農山村の活性化

県立大×わらび座×一里塚 100%県内産ビール“あきた麦酒 恵”

わらび座が経営する「田沢湖ビール」では、秋田県立大学と連携し、100%県産原料ビール“あきた麦酒 恵”を平成20年度より販売しています。平成21年度には農林水産省の補助を受けモルト工場を新設し、醸造作業も全て県内でできるようになりました。原料は県立大圃場で収穫した大麦と、わらび座が自家栽培しているホップ、和賀山塊の伏流水、県内で発見された桜天然酵母です。

平成22年度には三種町のNPO法人一里塚が耕作放棄地で契約栽培により原料の大麦を生産開始する予定です。

秋田県では、このような地域の活性化につながるコミュニティビジネスを応援していきます。



100%県産原料ビール



大麦を契約栽培

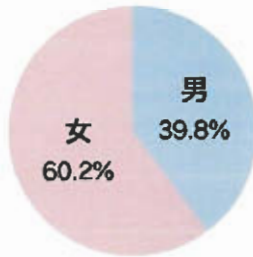
食料自給率を向上し地域を元気にしよう!

耕作放棄地を再生し、米粉用米の作付けと、新しい米粉の活用をすすめるため、米粉に関するアンケート実施

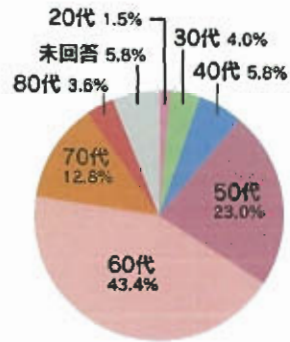
(秋田県農林水産部・秋田県耕作放棄地対策協議会)

地球人フォーラム2009 出席者に対するアンケート 2009.9.6実施

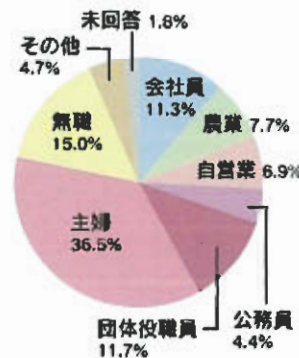
1 性別



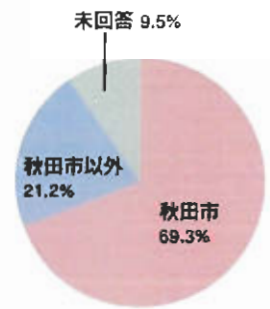
2 年齢



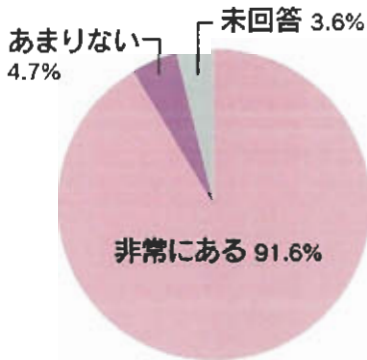
3 職業



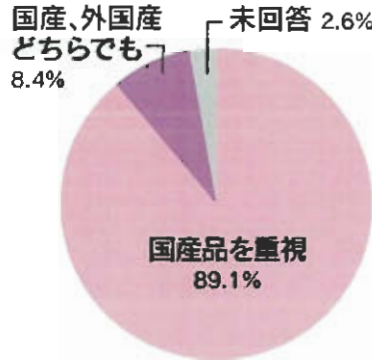
4 どの地域から参加されましたか?



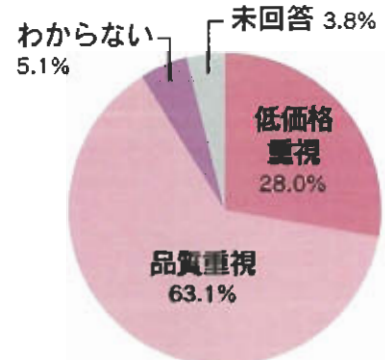
1. 食についての関心



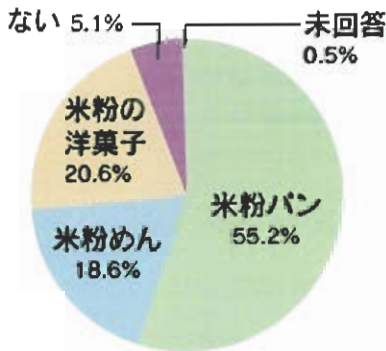
2. 食品の購入について



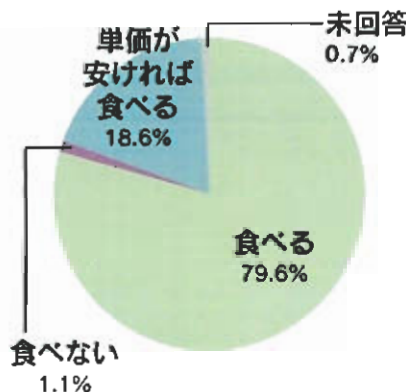
3. 食品の価格・品質について (複数回答あり)



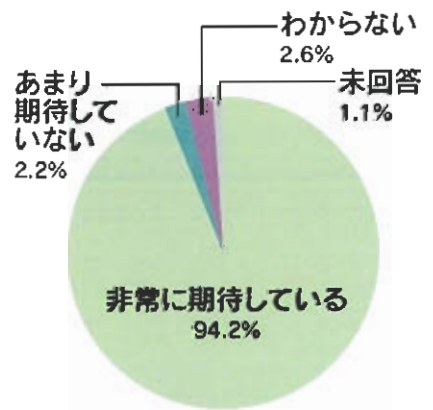
1. 和菓子以外で、米粉で作った食品を食べたことがある商品は? (複数回答あり)



2. 米粉商品について今後食べたいと思いますか?



3. 米粉の将来について



[農村環境保全・活性化の取組]

■連絡先

- 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会(秋田県土地改良事業団体連合会内)TEL018-888-2721・2748
- 秋田県耕作放棄地対策協議会(秋田県土地改良事業団体連合会内)TEL018-888-2712・2749
- 秋田県農林水産部 農山村振興課 TEL018-860-1851・1857・1858

平成21年度

地球人会議 活動状況



1 会議・イベント等の開催

●平成21年度地球人会議・幹事会

- 内 容: 運営委員会提出案件の協議
- 日 時: 平成21年7月27日(月)
- 場 所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
- 参加者: 幹事4名

●平成21年度地球人会議・運営委員会

- 内 容: 役員改選、平成20年度事業報告、平成20年度収支決算・会計監査、平成21年度事業計画(案)・収支予算(案)等の承認
- 日 時: 平成21年7月31日(金)
- 場 所: 水土里ネット秋田・会議室(秋田市)
- 参加者: 運営委員7名



●「水土里の郷 わくわく探訪」～土地改良施設巡り～

- 内 容: 秋田市、大仙市の児童・保護者が参加して、六郷湧水群やため池、分水工、用水管理センターなどの土地改良施設を見学。農業用水の役割、重要性などを学習する。
- 日 時: 平成21年6月27日(土)
- 場 所: 六郷湧水群、一丈木ため池、関田円型分水工、仙北平野用水管理センター
- 参加者: 65名

●あきた食料・環境・ふるさとを考える 地球人フォーラム2009

- 内 容: 「共に語り考える ふるさとの水・土・里」をテーマに、農業・農村の持つ様々な役割と、ふるさとが育んだ文化を再認識し、「水・土・里」を活かした地域活性化について考えるシンポジウムを開催。
- 日 時: 平成21年9月6日(日)
- 場 所: 秋田市文化会館・小ホール(秋田市)
- 参加者: 400名



2 会員への情報提供

●県・水土里ネット等が関係する各種事業やイベントなどに関する情報提供

●会報の発行

- 「大地の恵み vol.11」を会員に配布(発行予定:平成22年3月)

●インターネットを利用した情報提供

- <http://homepage2.nifty.com/akidoren/> (水土里ネット秋田)
- <http://www.inakajin.or.jp/chikyu/kaigi2.html> (全国水土里ネット)

3 他団体が主催する行事との連携

●秋田竿燈まつり(参加)

- 内 容: 秋田竿燈まつりへの参加。竿燈土地改良展の企画運営への協力
- 日 時: 平成21年8月3日(月)～6日(木)
- 場 所: 秋田市竿燈大通り



4 その他

●「農業農村整備フェア」(秋田県種苗交換会協賛行事)との連携

●「21世紀土地改良区創造運動」との連携

●「水土保全強化対策事業」との連携

●「秋田県・農地・水・環境保全向上対策地域協議会」との連携

●「農業用水水源地域保全対策事業普及促進対策」との連携



県内水土里ネット(土地改良区)のホームページ

MIDORI NET
INFORMATION



① 水土里ネット大潟(大潟土地改良区)

<http://www.ogata.or.jp/~dokai/>

② 水土里ネット稲川(稲川土地改良区)

<http://www17.ocn.ne.jp/~itk/>

③ 水土里ネット二井田真中(大館市二井田真中土地改良区)

<http://www15.plala.or.jp/niida17hp/>

④ 水土里ネット天王(潟上市天王土地改良区)

<http://www.tendokai.or.jp/>

⑤ 水土里ネット新城川(新城川土地改良区)

<http://www.shinjougawa.or.jp/index.html>

⑥ 水土里ネット山田五ヶ村(雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区)

<http://www.yutopia.or.jp/~yamada5>

⑦ 水土里ネット湯沢中央(湯沢市中央土地改良区)

<http://www4.ocn.ne.jp/~yuzawato/index.html>

⑧ 水土里ネット雄物川筋(秋田県雄物川筋土地改良区)

<http://www3.ocn.ne.jp/~omosuji>

⑨ 水土里ネット千畑(美郷町千畑土地改良区)

<http://www.ab.auone-net.jp/~sentokai/index.html>

「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換

感想をお聞かせください。

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

- ①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想
- ②地球人会議の活動に関する意見・感想

■あて先 〒010-0967 秋田市高麗幸町3-37
水土里ネット秋田内 地球人会議事務局
TEL 018-888-2742 FAX 018-888-2834 E-mail: akidoren@nifty.com



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、委員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。



あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

【食料】

我が国の食料自給率は41%。もし、輸入農産物がなかったら…。
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。
今、安全・安心なものはどれですか？

【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさや安らぎ、そして人間らしさ…。
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「収穫の喜び」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

この印刷物は
再生紙を
使用しています。

「大地の恵み」は地球人会議発行の情報誌です。
地球人会議の会員や公的な機関および多くの方々が集う施設等で、
回覧誌としてご利用いただければ幸いです。